

東京都世田谷区在住夫妻の生活時間-1995年調査  
第6報 環境配慮型消費行動の実態と消費者教育

○松葉口玲子\* 天野晴子\*\* 森ます美\* (\*昭和女大、\*\*青葉学園短大)

**目的:** 環境問題の深刻化に伴い、家庭生活における日々の消費行動も問い直しを求められている。本報では、世田谷区の調査結果を用いて、環境配慮型消費行動の現状についての分析・考察を行い、環境配慮型消費者教育への提言をすることを目的とする。

**方法:** 調査方法・調査協力者の特徴は第1報に同じ。環境配慮型消費行動28項目についての実行状況とその理由、消費生活に関する学習・活動への参加状況等に関するアンケートを生活時間調査に付帯し、その結果を分析・考察した。

**結果:** 1. 夫妻別に環境に配慮した消費行動の実態をみると、妻の方が夫よりも環境に配慮した消費行動をとっている傾向にあった。2. 夫の中では妻常勤の夫が最も環境に配慮した行動をとっていた。また、妻の中ではパートの妻が最も環境に配慮した行動をとっており、消費生活に関する学習・活動への参加も多かった。3. 第5報で示された社会的・文化的生活時間のなかで、特に「社会的/消費者活動」に費やしている時間は平日・休日ともにほとんどみられなかったが、1・2の結果は、第4報の家事労働の実態と関連のあることが認められた。4. 全体的に、家計の節約につながるもの・ゴミの回収など自治体でシステムのあるものは実行されていた。5. 今後の環境配慮型消費行動を促進するための消費者教育を考えるにあたり、「社会的/消費者活動」の時間としてとらえるだけでなく、家事労働など他の生活時間との関わりに着目する必要性が認められた。